

国際ボランティア学会

ニュースレター NO. 19

2012年9月15日
国際ボランティア学会事務局
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-2
大阪大学大学院人間科学研究科
人間開発学講座内
Tel & Fax : 06-6879-8064
E-mail: volsocio@hus.osaka-u.ac.jp

1. 第14回大会へのお誘い
2. 第14回大会概要
3. 第13回大会の報告
4. 2011年度の会計報告
5. 第13回隅谷三喜男賞の公募のお知らせ
6. 会費納入のお願い
7. 「ボランティア学研究・第12号」のお知らせ

1. 第14回大会へのお誘い

内海成治 国際ボランティア学会会長

厳しい残暑も過ぎ、秋を感じさせる今日この頃ですが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。2012年度のニュースレターの発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

東日本大震災から1年半が経過いたしました。復興の足音は聞えてくるものの、出口のない多くの課題が山積しています。1年半が経過したとはいえ、報道もしっかり行われており、また内外からの支援やボランティア活動も風化することなく持続的に行われております。その意味で、今度の震災を契機にしてボランティアの在り方が大きく変化したように感じています。日本の市民や学生にとってボランティア活動とは多様で息の長い活動であることが強く認識されているのではないのでしょうか。

ボランティア活動の実践とボランティア学の研究を行う学術団体としての国際ボランティア学会はこれまで以上に大きな役割と責任を担わなければならないと思います。これは今年の2月25日・26日に立命館大学びわこ・くさつキャンパスで行われた東日本震災後のボランティア活動をテーマとした大会での論議のなかで強く感じたことです。それゆえに、会員の皆様の実践と研究がこうした大きな災害の中でも、被災した人々や子どもたちへの思いをつなげるためにも一層進んで行くことを願っています。

今年度の学術大会はこのニュースレターでご案内のように愛知淑徳大学星が丘キャンパスで2013年2月16日（土）・17日（日）に行われます。私も2度愛知淑徳大学を訪れて実行委員長の小島祥美さんと打合せを行いました。「なごや、大好き！だから、考えよう。」をテーマに名古屋発の大変意味深い大会になると確信しています。また、会場となる星が丘キャンパスは名古屋駅から地下鉄1本で行けるととても便利で、そして素敵なキャンパスです。小島さんのご尽力で例年になく早くから準備ができ、また、大学からのサポートもあり、充実した大会が期待できます。実行委員長の小島祥美さんも張り切っていますので、会員の皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

国際ボランティア学会の年次大会が、名古屋に初上陸します。

そこで2012年度・第14回大会は、「なごや、大好き！だから、考えよう。」をテーマに、研究と実践を結ぶ公開シンポジウムと緊急フォーラムを企画しました。公開シンポジウムでは、「お金の地産地消から、地域の未来を描く」と題し、地域内で志のあるお金を社会課題の解決へ繋げるしくみ“市民ファンド”について、緊急フォーラムでは、「東海地震に負けない！みんながやるべきこととは」と題し、阪神淡路大震災および東日本大震災からの教訓について、考えます。いずれも参加費無料の市民公開プログラムです。多数の方々のご参加を心待ちにしています。

また、研究発表では、従来の自由研究に加え、「在住外国人」「サービス・ラーニング」の2つの特定テーマでの研究発表を募ります。本大会では、「優秀演題発表賞」を新たに設け、卓越した研究発表を表彰します。研究者だけではなく、NGO/NPOや行政の方々による各地の実践や活動報告、院生・学生の皆さんの体験報告なども大歓迎です。ふるってご応募下さい。

実行委員一同、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

大会実行委員長 小島祥美（愛知淑徳大学 准教授）

2. 第14回大会概要

【日時】2013年2月16日（土）、17日（日）

【会場】愛知淑徳大学 星が丘キャンパス内
愛知県名古屋市千種区桜が丘23

<http://www.aasa.ac.jp/guidance/map.html>

名古屋駅より地下鉄東山線「星ヶ丘」駅まで18分。3番出口から徒歩3分。

【大会実行委員長】小島祥美（愛知淑徳大学 文学部 准教授）

【大会スケジュール概要：予定（仮称含む）】

※詳細なスケジュールや会場案内等については、後日大会ホームページでご案内します
(2012年12月1日更新予定)。

<1日目・2月16日（土）>

9:30～ 受付開始
10:00～12:00 演題発表Ⅰ【特定テーマ研究】
12:00～13:00 昼食休憩
13:00～17:30 市民公開プログラム
「なごや、大好き！だから、考えよう。」
18:00～19:30 懇親会

<2日目・2月17日（日）>

9:30～ 受付開始
10:00～12:00 演題発表Ⅱ【自由研究】
12:00～13:00 昼食休憩（理事会）
13:00～14:00 隅谷三喜男賞・優秀演題発表賞授賞式、総会

1. 市民公開プログラムについて (予定)

◎公開シンポジウム「お金の地産地消から、地域の未来を描く」

基調講演／NPO 法人日本ファンドレイジング協会 代表理事 鵜尾雅隆氏
(㈱ファンドレックス代表取締役)

活動報告／NPO 法人ジャパン・プラットフォーム 共同代表理事 有馬利男氏
(富士ゼロックス㈱元代表取締役社長、現相談役)

あいち市民ファンド (仮称) 木村真樹氏
(コミュニティ・ユース・バンク momo 代表理事)

進行／お茶の水女子大学講師 桑名恵氏 (ピース・ウィンズ・ジャパン理事)

◎緊急フォーラム「東海地震に負けない！みんながやるべきこととは」

パネラー／愛知県知事 大村秀章氏

静岡県袋井市長 原田英之氏

人と未来の防災センター主任研究員 阪本真由美氏

ピース・ウィンズ・ジャパン代表理事 大西健丞氏

進行／大阪大学大学院教授 中村安秀氏

総合進行／愛知淑徳大学准教授 小川明子氏 (元 CBC アナウンサー)

2. 研究発表について

<発表申込期間>

- ・発表申し込み期間は、9月15日(土)から10月31日(水)までとします(締め切り厳守)。
- ・応募される方は、国際ボランティア学会のホームページの「第14回大会参加・研究発表申込フォーム」(<http://ws.formzu.net/fgen/S58334857/>)より必要事項を入力してください。
- ・上記のフォームによるエントリーで、11月初旬の大会実行委員会で発表種別を決めた後、応募者にお知らせします。
- ・報告要旨集の原稿は、メールによるファイル添付で第14回大会実行委員会専用アドレス 14thnagoya@gmail.com まで送付してください。締め切りは、2012年12月25日必着です。

<原稿の作成方法>

- ・原稿は、Windows版もしくはMac版の「ワード」文書の形式に限ります。
- ・1題につきA4用紙で1枚とし、余白は上下左右25mm、1行目に演題名(タイトル)、2行目に発表者氏名(所属名)と共同発表者(所属名)、3行目にキーワード5つ以内、5行目から本文を記入してください。

<特定テーマ研究・自由研究発表>

発表時間10分+質疑応答5分の計15分とし、口頭で発表してください。

<ポスター発表>

発表資料を模造紙1枚分(790×1,090mm)にまとめて掲示し、参加者に対して適宜説明や質疑応答をしてください。

3. 大会申し込みについて

国際ボランティア学会のホームページの「第14回大会参加・研究発表申込フォーム」(<http://ws.formzu.net/fgen/S58334857/>)より必要事項を入力していただき、大会参加費を第14回大会委員会専用口座へ振込ください。なお、領収書は学会当日受付にてお渡しいたします。

<大会参加費（含む「発表要旨録集」代）>

【2012年12月末までの早期申込割引】

正会員：3,000円 学生会員：1,500円

【2013年1月以降】

正会員 4,000円 学生会員 2,000円

なお、臨時会員については5,000円（学生2,000円）とします。

<懇親会費>

正会員：3,000円 学生会員：1,000円

同会場内で、地域に暮らす外国人住民たちによる手料理を囲みながら気軽に懇親いただける場をご用意します。

<第14回大会委員会専用口座>

※インターネットバンキングを利用する場合は、必ず学会員名で振込ください。

◎ゆうちょ銀行

口座名：国際ボランティア学会 第14回大会実行委員会

口座番号：00990-2-144932

◎三菱東京UFJ銀行

口座名：国際ボランティア学会 第14回大会委員長小島祥美

支店名：笹島支店 店番：677 口座番号：0059924

<その他>

- ・市民公開プログラムは、学会員以外にも公開いたします（参加費無料、先着300名、事前申込者優先）。
- ・学会員以外の方が、市民公開プログラムに参加される場合は、国際ボランティア学会のホームページ（「第14回大会・市民公開プログラム申込フォーム」<http://ws.formzu.net/fgen/S34822341/>から申し込みいただく）、もしくはお電話・FAX（お名前、ご所属、連絡先をご記入いただき第14回大会実行委員会宛て）で申し込みください。
- ・宿泊については、ご自身での手配をよろしくお願ひします（地下鉄東山線の栄駅、伏見駅付近には手頃なビジネスホテルが多く、会場および名古屋駅へのアクセスも便利です）。

<お問い合わせ先>

国際ボランティア学会第14回大会実行委員会

E-mail: 14thnagoya@gmail.com

TEL & FAX: 06-6879-8064

3. 第13回大会の報告

去る2月25日から26日にかけて、立命館大学びわこ・くさつキャンパスにて国際ボランティア学会第13回大会が開催されました。東日本大震災を経て初めての年次大会ということもあり、大会テーマには「震災・ボランティア・コミュニティデザイン」と掲げられました。一般開放プログラムとあわせて約100名のご参加をいただきました。多くの方々のご関心、ご参加にお礼を申し上げますと共に、盛会のうちに終了できましたことを謹んでご報告させていただきます。

とりわけ大会テーマと同じ名称の特別シンポジウムには、内海成治会長のお取りはかりによって、実に充実したパネリストを迎えました。順不同でご紹介させていただきますと、震災後に災害ボランティア活動担当の首相補佐官を務めた衆議院議員の辻元清美先生、ご家族を失いながらも復興の先頭に立ってきた陸前高田市の戸羽太市長、東日本大震災復興支援財団専務理事も兼務するソフトバンク社長室の荒井優さん、そして当学会理事でもありCIVIC FORCE代表理事として緊急即応支援にあたってきたピースウィングス・ジャパン代表理事の大西健丞さんという、そうそうたる顔ぶれでした。当学会事務局の中村安秀先生には、多岐にわたるパネリストからの観点をつなぎ、論点を引き出し、議論を導いていただきました。

当日の様子は新聞各紙で報道され、その一部が、当学会のホームページにて紹介させていただいておりますので、またご参照いただければうれしく思います。なお、特別シンポジウム以外にも、一般発表が21本、ラウンドテーブルディスカッションが2本、さらには特に学生の活動を中心的に支援してきたボランティアセンターの事例発表が行われたトークセッションも開催されました。両日にわたり、広く一般の方々に多数の参加を得たことは、当学会が今後もグローバルな視点からローカルな実践知を架橋していくことの責務を再確認されられたように思います。

大会のバトンは愛知淑徳大学へとつながることとなります。今回は震災ばかりに焦点が当てられたと思う形も多いかもかもしれませんが、例えば「CSRと市民社会」と掲げた円卓での議論も催されています。ただ、当学会の設立も、阪神・淡路大震災が一つの契機でした。「戦後から災後へ」といった表現も用いられるなか、時代を生き抜き、世代に継承できる知恵が紡がれ続けることを願っております。

山口洋典（立命館大学立命館大学 共通教育推進機構 准教授）



特別シンポジウム



ラウンドテーブルディスカッション



お手伝いいただいた学生の皆さん

大会では、第12回隅谷三喜男賞の受賞者の発表が行われました。研究奨励賞は、ベトナムのストリート・チルドレンについて調査と支援活動に長年携わってきた吉井美知子会員の著書『立ち上がるベトナムの市民とNGO』（明石書店 2009年）に授与されました。実践賞は残念ながら、該当者はいませんでした。

4. 2011年度の会計報告

2011年度の会計報告は以下の通りです。

収入の部

勘定科目	予算額	決算額	差額	備考
前年度より繰越	1,700,000	2,529,070	829,070	
年会費	540,000	641,000	101,000	
学会誌販売	50,000	120,320	70,320	
寄付	25,000	25,000	0	
雑収入	5,000	17,605	12,605	学会誌別刷代を含む
合計	2,320,000	3,332,995		

支出の部

勘定科目	予算額	決算額	差額	備考
大会開催費	200,000	200,000	0	
印刷費	500,000	822,151	322,151	第10号、第11号
賃金	100,000	0	-100,000	
通信・運搬費	140,000	64,813	-75,187	
物品購入費	10,000	14,452	4,452	角2封筒
その他	250,000	100,570	-149,430	別刷り、振込手数料、過払分返金、弁当代
次年度へ繰越	1,120,000	2,131,009	1,011,009	
合計	2,320,000	3,332,995		

・差額は、（決算）－（予算）で計算

5. 第13回隅谷三喜男賞の公募のお知らせ

今年度も国際ボランティア学会では、隅谷三喜男賞を以下の選考規定により選考することになりました。

応募様式などは自由です。みなさまからの自薦・他薦の応募をお待ちしております。なお、応募締切期日は2012年12月6日（木）です。

【参考】 隅谷三喜男賞選考規定

1. 名称
本賞は、国際ボランティア学会隅谷三喜男賞と称する。
2. 主旨
本賞は、初代会長隅谷三喜男博士を記念し、ボランティア学研究およびボランティア活動の発展を期して、研究および実践を奨励することを目的とする。受賞者には賞状および記念品を授与する。
3. 対象者
毎年度原則、2名（個人あるいは団体）
4. 選考対象
(1)著作・論文（学会誌掲載論文、およびボランティア学に関する著書・論文）
(2)実践
どちらも、賞の対象となる論文・活動記録を、自薦あるいは他薦により、本学会隅谷三喜男賞選考委員会あてに、本賞に応募する旨を明記して、申し出た者。
5. 選考委員会
本学会理事の互選による5名以内で構成する。選考委員の任期は3年とし、再任を妨げない。選考委員長は選考委員の互選とする。選考委員会は必要に応じて会員の協力を求めることができる。
6. 選考手順
選考委員会は選考を当該年の総会以前におこない、理事会の決議を経て、大会および総会において発表する。

6. 会費納入のお願い

学会運営は、基本的に会員皆様からの会費で支えられております。是非とも、学会の活動にご協力をお願いいたします。また、住所・所属等を変更された場合は、速やかに事務局までご一報くださいますよう、お願いいたします。

2012年度分の会費は以下の通りです。

〔年会費〕 一般会員：5,000円／学生会員：2,000円／法人会員：10,000円

同封の振込用紙をご使用のうえ、お振り込みください。（未納の方にのみ送付）

学会事務局連絡先

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-2

大阪大学大学院人間科学研究科 人間開発学講座内

国際ボランティア学会事務局

Tel & Fax: 06-6879-8064

Email: vol socio@hus.osaka-u.ac.jp

7. 「ボランティア学研究・第12号」のお知らせ

国際ボランティア学会誌の「ボランティア学研究」は、会員外の方でも、購入することが可能です。

「ボランティア学研究・第12号」（2012年8月発行）

特集：「東日本大震災と国際ボランティア」

価格：1冊 2,000円＋郵送料

購入希望の方は、国際ボランティア学会事務局まで気軽にお申し込みください。

<愛知淑徳大学・星が丘キャンパス アクセスマップ>

